

■■■◆ KOHKEN Chemical News Liner

■■◆

(株)工業市場研究所

◆

<http://www.kohken-net.co.jp>

2018年1月18日



平素より当メールマガジンをご利用いただきまして、ありがとうございます。
2018年最初のメールマガジンです。本年もよろしくお願い申し上げます。

なお、次週(1月25日号)は、都合により、メールマガジンの配信はお休みさせて頂きます。2月1日に2週間分を配信させて頂きます。

----- HEADLINE -----

- ◆コンパウンド: DIC「ソリッドコンパウンド技術センター・アジアパシフィック」
を開設(1月12日)
- ◆ディスプレイ: ポラテクノと東北大学がインセル染料系偏光子と量子ドットを用
いたボトムエミッション型ディスプレイを開発(1月12日)
- ◆電池材料: 旭化成がリチウムイオン二次電池用セパレータの生産能力を増強
(1月11日)
- ◆断熱材: 旭化成建材が最高性能の断熱材「ネオマゼウス」の販売を開始
(1月11日)
- ◆樹脂: ユニチカが車載センシングカメラ筐体・鏡筒用樹脂材料を開発
(1月11日)
- ◆電子材料: 日本板硝子が微細貫通穴ガラス基板(TGV)の開発に成功
(1月11日)
- ◆樹脂: BASF が光沢と耐久性を兼ね備えた自動車内装用の特殊ポリアミドの
開発に成功(1月10日)
- ◆電子材料: 大日本印刷が米国フォトリソクスと中国での半導体用フォトマスク
合弁会社の設立手続きを完了(1月5日)
- ◆原油: 昭和シェルが2018年第1四半期の原油処理計画を発表
(1月5日)
- ◆原油: 出光興産が2018年1-3月の原油処理計画を発表
(12月26日)
- ◆界面活性剤: 日本触媒がタイでの界面活性剤製造販売合弁事業検討に関す

る覚書を締結(12月26日)

◆有機:三菱ケミカルが MET Gas Processing Technologies 社とのプロピレン誘導品プロセスライセンスに関わる協業契約を締結(12月25日)

◆冷凍機油原料:KH ネオケムが冷凍機油原料の生産能力を増強(12月25日)

◆価格改定

- ・東亜合成がアクリル酸、アクリル酸エステル、特殊アクリル酸エステルを1月15日出荷分より値上げ
- ・住友ベークライトがプレート製品を1月22日出荷分より値上げ
- ・住友ベークライトが医療用・一般用の塩化ビニル樹脂シート、ポリプロピレン樹脂シート、フッ素系シート、食品用の多層フィルム・シートを1月21日出荷分より値上げ
- ・日本合成化学工業がエチレン・ビニルアルコール共重合樹脂を1月20日出荷分より値上げ
- ・JXTG エネルギーがベンゼンの契約価格を改定
- ・東洋紡が導電性不織布を1月1日納入分より値上げ
- ・クラレが MMA モノマー(メタクリル酸メチル)、MAA(メタクリル酸)、PMMA 成形材料(ポリメタクリル酸メチル)を1月15日出荷分より値上げ
- ・デンカが酢酸ビニルーエチレン系共重合エマルジョンを1月22日出荷分より値上げ
- ・デンカがスチレン系シート及びサーモシート BOPS を1月15日出荷分より値上げ
- ・住友大阪セメントがセメント・固化材を4月1日より値上げ
- ・東ソーがペースト塩ビ樹脂を2月1日納入分より値上げ
- ・出光興産が石油製品の12月分の卸価格改定幅を発表(1月4日)



◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーケティングラボ』を新設しました

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査の

メニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

----- WEEKLY NEWS -----

◆コンパウンド：DIC「ソリッドコンパウンド技術センター・アジアパシフィック」
を開設（1月12日）

DICは、PPS(ポリフェニレンサルファイド)コンパウンドや樹脂用着色剤などのコンパウンド事業において、東南アジアや南アジアの市場に適した製品の開発・改良や技術サービス体制の強化を目的として、マレーシアに「ソリッドコンパウンド技術センター・アジアパシフィック」を開設したと発表した。

同センターは、コンパウンド製品を生産する100%子会社のDIC Compounds (Malaysia)の敷地内に設置し、2017年1月より本格稼働を開始している。

PPSコンパウンドは、ハイブリッドカーや電気自動車を中心に軽量化を目的とした金属材料からの代替、エンジンのダウンサイジングによる要求特性の高度化から、従来車と比較して一台あたりの使用量は飛躍的に増加し、同地域で年率約7%の市場成長が見込まれている。

また、樹脂用着色剤は、日用品や食品向け包装資材や各種フィルムなどに幅広く多用されており、同地域での日用品市場成長については年率4%程度と見込まれている。

DICグループでは、成長牽引事業の一つであるコンパウンド事業において2020年に売上高430億円を目指すとしている。

◆ディスプレイ：ポラテクノと東北大学がインセル染料系偏光子と量子ドットを用いたボトムエミッション型ディスプレイを開発（1月12日）

ポラテクノと東北大学藤掛石鍋研究室のグループは、インセル染料系偏光子と量子ドットを液晶ディスプレイに使用し、ボトムエミッション構造とすることで、明るい環境でも視認性に優れた新規なディスプレイを開発したと発表した。

液晶ディスプレイ、有機エレクトロルミネッセンスディスプレイは明るい環境下では見えづらくなるという課題があった。このためディスプレイの表面輝度を上げる必要があり消費電力を増加させてしまう原因にもなっていた。

開発されたディスプレイは、バックライトに400nm付近の短波長のLEDを使用し量子ドット(QD: Quantum Dot)カラーフィルターを発光させることでカラー表示を実現し色再現範囲の向上と低消費電力化を可能としている。さらに偏光子

に使用する材料を工夫して 400nm 付近の短波長光に対しても偏光性能を付加し、QD カラーフィルターを液晶層、インセル染料系偏光子の下に配置したボトムエミッション構造とすることで外光が量子ドットを発光させ表示に寄与させることができ、明るい環境下でも優れた表示品位を実現することができる。

製品化については 3 年後の 2020 年の予定としている。

◆電池材料:旭化成がリチウムイオン二次電池用セパレータの生産能力を増強
(1月11日)

旭化成は、リチウムイオン二次電池(LIB)用セパレータ(セルガード、ハイポア)の生産能力増強を決定したと発表した。

同社では、現在、乾式膜は米国ノースカロライナ州に、湿式膜は滋賀県守山市と宮崎県日向市および韓国に生産拠点を置いている。

今回の設備投資額は、約 75 億円となる。設備増強の内訳としては、①ノースカロライナで乾式膜の生産能力を約 1 億 5,000 万 m²/年増強し、約 4 億 m²/年とする。稼働時期は 2018 年度下期商業運転開始を予定している。②守山で乾式膜の生産能力を約 9,000 万 m²/年増強し、約 7 億 m²/年とする。稼働時期は 2020 年度上期商業運転開始の予定としている。

◆断熱材:旭化成建材が最高性能の断熱材「ネオマゼウス」の販売を開始
(1月11日)

旭化成建材は、2016 年 12 月に開発成功を発表した断熱材「ネオマゼウス」について、本年 1 月 16 日より販売を開始することを発表した。

同社は、現在フェノールフォーム断熱材「ネオマフォーム」および「ネオマジューピー」の 2 製品を展開しているが、2017 年 4 月から開始された省エネ基準適合化など、住宅における断熱性能の高性能化が進行するなか、従来の 2 製品よりさらに断熱性能を 10%高めた「ネオマゼウス」を開発し、販売の準備を進めてきた。

同社によると、JIS 認証および主要な防火構造認定の取得等の準備が整ったことから、販売を開始したとしている。

◆樹脂:ユニチカが車載センシングカメラ筐体・鏡筒用樹脂材料を開発
(1月11日)

ユニチカは、高い耐熱性と寸法精度を有する車載センシングカメラ筐体・鏡筒用樹脂材料(以下車載カメラ用樹脂)を新たに開発したことを発表した。

新たに開発した車載カメラ用樹脂は、ポリアリレート樹脂「U ポリマー」をベースとした室内カメラ向けと高耐熱ポリアミド樹脂「XecoT」をベースとした室外カ

メラ向けの 2 つのグレードに分かれる。

室内カメラ用「U ポリマー PS-7020」はフロントセンシング用単眼カメラを初めとした室内搭載の高精度カメラ用グレードである。室外カメラ用「XecoT XD367A40」はサラウンドビュー用カメラなどの、屋外搭載の高性能ビューカメラ用グレードである。

今回開発した車載カメラ用樹脂は、まずは車載センシングカメラ用を中心として市場への展開を図り、さらに寸法精度をより高く求められる用途の開拓も進めるとしている。これらの市場展開、用途開拓活動は、上記開発品より樹脂価格面でメリットのある、同社ポリアミド樹脂の寸法安定グレード(従来品)と共に進めていく計画。寸法精度などの要求水準が低位の従来型ビューカメラ用部品の開拓活動を進めていく考えであり、3 素材合わせて 2022 年に 5 億円の販売を目指すとしている。

◆電子材料:日本板硝子が微細貫通穴ガラス基板(TGV)の開発に成功
(1月11日)

日本板硝子は、微細貫通穴ガラス基板(TGV:Through Glass Via、以下「TGV」)の開発に成功したことを発表した。

TGVは厚さ0.1~1mm程度の薄いガラス基板に直径数10~100umの微細な貫通穴を超高密度で開けたガラス基板で、次世代の電子基板材料として注目を集めている。

日本板硝子は、実装基板(GIP)に適したガラス材料と高品位な穴形状を形成する実用的な加工技術を同時に開発した。

今後、TGVが次世代の電子基板材料として採用されるよう、顧客への提案を進めるとともに、実用化に向けた準備を進めていくとしている。

◆樹脂:BASFが光沢と耐久性を兼ね備えた自動車内装用の特殊ポリアミドの開発に成功(1月10日)

BASFは半結晶性ポリアミドの耐薬品性と、非晶性プラスチックの高い光沢度および透過性を兼ね備えた特殊ポリアミド、Ultramid Deep Glossの開発に成功したと発表した。

開発品は、ポリマー原材料と添加剤のバランスを取ることで、高い光沢度や透明性のほか、耐傷つき性や耐摩耗性、耐紫外線性といった、高い表面品質を持続させる特性を備えている。また、同品はバリオサーマル金型システム(金型昇降温機構を有するシステム)無しでの射出成形が可能であり、コンポーネントのコーティングが不要なため、様々な加工が可能である。

BASFでは、Ultramid Deep Glossは主に自動車の内装材向けに開発された

が、同じような需要のある消費財部門のコンポーネントを製造することも可能であり、今後サンプルとして、世界的に提供を始めるとしている。

◆電子材料：大日本印刷が米国フォトロニクスと中国での半導体用フォトマスク合弁会社の設立手続きを完了（1月5日）

大日本印刷（DNP）は、米国のフォトマスクメーカーの Photronics, Inc.（フォトロニクス）と、2017年5月16日に締結した中国での半導体用フォトマスク事業の合弁契約に基づき、合弁会社の設立手続きを完了したと発表した。

DNP はフォトロニクスと共同で、台湾に半導体用フォトマスクを製造・販売する合弁会社を2014年に設立して運営している。今後の世界の半導体市場は、中国での大きな成長が見込まれており、2020年には世界の生産能力のおよそ2割を中国が占めると予測されている。

DNP とフォトロニクスは、現地で生産することにより、中国におけるフォトマスク事業を拡大していく計画で、今回の合弁会社設立の手続き完了に伴い、半導体製造の主要部材であるフォトマスクの現地生産に向けた準備を進めていく。

DNP とフォトロニクスでは、今後5年間で160百万 USドルを投資して福建省の廈門市に新工場を建設し、2019年春頃から半導体用フォトマスクの量産を開始する予定としている。

◆原油：昭和シェルが2018年第1四半期の原油処理計画を発表（1月5日）

昭和シェルは、グループ4製油所の2018年1-3月の国内向け原油処理量を、対前年同期比95%の735万KLとすることを発表した。

同計画は、国内需要動向に対応しながら、適正在庫を維持し、必要に応じて国内市場での製品調達も選択肢に入れ、石油製品の安定供給を実現するものであるとし、海外向け原油処理量は、海外製品市況動向を踏まえ、適宜決定していくとしている。

◆原油：出光興産が2018年1-3月の原油処理計画を発表（12月26日）

出光興産は、2018年1月から3月の原油総処理計画を3製油所合計で前年比97%の715万KLとすることを発表した。

国内の燃料油需要が、省燃費車の普及等の要因から前年を下回る水準を見込む中、冬場の暖房需要に対し、最大限の生産を実施し対応するための処理水準とした。

同社では、足元の気温が低く推移している影響により、在庫は例年を下回る水準となっているため、今後の需要動向も見極めながら、追加輸入・国内調達等の手段を活用し、安定供給に努めていく。また、輸出向け処理は、良好な海

外市況のメリットを享受すべく、揮発油を中心に最大限実施していくとしている。

◆界面活性剤：日本触媒がタイでの界面活性剤製造販売合弁事業検討に関する覚書を締結（12月26日）

日本触媒は、PTT Global Chemical Public Company Ltd.（以下「PTTGC」）、三井物産と共同で、タイにおけるエチレンオキシド（EO：酸化エチレン）を原料とするセカンダリーアルコールエトキシレート（界面活性剤、商品名：ソフタノール）の製造販売合弁事業に関する検討を進めるための覚書（Memorandum of Understanding：以下「MOU」）を締結したと発表した。

MOU締結により、タイにおけるソフタノール製造販売に関わる事業化検討を開始し、2019年3月期中の投資判断を予定している。

本製造設備の立地は、マラートイースタン工業団地を候補地とし、2022年の商業運転開始を目標に検討を進めていく。原料となるエチレンオキシドは、同工業団地内のPTTGCより供給を受ける予定である。

ソフタノールは、一般家庭用の液体洗剤や、工業用の各種洗浄剤等、幅広い用途に使用されており、今後の需要の伸びが見込まれるため、同社のEO事業の強化・拡大に向けて本検討を進めていくとしている。

◆有機：三菱ケミカルがMET Gas Processing Technologies社とのプロピレン誘導品プロセスライセンスに関わる協業契約を締結（12月25日）

三菱ケミカルは、イタリアの大手エンジニアリング会社Maire Tecnimont社の子会社であるMET Gas Processing Technologies（以下「MET社」）との間で、天然ガスからアクリル酸、アクリル酸エステル及びオキシアルコールを製造するプロセスライセンスに関する協業契約を締結したと発表した。

今回の協業契約により、今後同社およびMET社は、MET社が保有する天然ガスに含まれるメタンからダイレクトにプロピレンを製造する技術と、同社が保有するプロピレンからアクリル酸、アクリル酸エステル及びオキシアルコールを製造する技術とをパッケージにした技術ライセンスビジネスを展開していく。

現在、アクリル酸、アクリル酸エステル及びオキシアルコールの世界需要は年率5%以上で拡大している。また、天然ガスからのプロピレン製造は、現在その殆どがメタノールを中間製品として経由する方法であり、今回協業対象であるMET社のプロセスは、天然ガスに含まれるメタンからダイレクトにプロピレンを製造する新規技術で安価にプロピレンを製造することが可能としている。

◆冷凍機油原料：KHネオケムが冷凍機油原料の生産能力を増強（12月25日）

KHネオケムは、機能性材料事業の主力製品である冷凍機油原料の生産能

力を増強するため、新規製造設備の建設を決定したと発表した。

冷凍機油はエアコンの内部で冷媒を循環させるために使用する潤滑油であるが、近年、新興国におけるエアコン市場の拡大や、オゾン層破壊や地球温暖化に配慮した冷媒へのシフトに伴い、環境配慮型冷凍機油の需要が伸長している。同社では今後、さらなる需要伸長が予想されることから冷凍機油原料の生産能力を増強することとした。

総投資額は約 75 億円(機械装置および構築物等)、平成 32 年 1 月から生産を開始する予定としている。

◆価格改定

- ・東亜合成がアクリル酸、アクリル酸エステル、特殊アクリル酸エステルを 1 月 15 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、各製品とも 16 円/kg 以上
- ・住友ベークライトがプレート製品を 1 月 22 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、ポリカーボネート樹脂製品:8%以上
塩化ビニル樹脂製品:3%以上、その他樹脂製品:3~8%以上
- ・住友ベークライトが医療用・一般用の塩化ビニル樹脂シート、ポリプロピレン樹脂シート、フッ素系シート、食品用の多層フィルム・シートを 1 月 21 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、5%
- ・日本合成化学工業がエチレン・ビニルアルコール共重合樹脂を 1 月 20 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、日本国内:30 円/kg、中国・アジアパシフィック:0.2 USD/kg
- ・JXTG エネルギーがベンゼンの契約価格を改定
1 月契約価格は、885 \$/t(前月比+0 \$/t)、国内価格換算想定値は 106.0 円/kg
- ・東洋紡が導電性不織布を 1 月 1 日納入分より値上げ
改定後の価格は、2,100 円/m²
- ・クラレが MMA モノマー(メタクリル酸メチル)、MAA(メタクリル酸)、PMMA 成形材料(ポリメタクリル酸メチル)を 1 月 15 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、MMA モノマー及び MAA:30 円/kg、PMMA 成形:50 円/kg
- ・デンカが酢酸ビニル-エチレン系共重合エマルジョンを 1 月 22 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、15 円/kg以上
- ・デンカがスチレン系シート及びサーモシート BOPS を 1 月 15 日出荷分より値上げ

- 値上げ幅は、10 円/kg以上
- ・住友大阪セメントがセメント・固化材を 4 月 1 日より値上げ
値上げ幅は、1,000 円/トン
- ・東ソーがペースト塩ビ樹脂を 2 月 1 日納入分より値上げ
値上げ幅は、15 円/kg
- ・出光興産が石油製品の 12 月分の卸価格改定幅を発表(1 月 4 日)
油種別の改定幅は、前月比で、ガソリン+1.3 円/L、灯油+1.2 円/L、
軽油+1.1 円/L、A 重油+0.9 円/L としている。



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ h-ikeda@kohken-net.co.jp

